

## 令和5年度第2回三重県薬事審議会 議事概要

### 1 開催日時

令和5年11月22日(水) 19:00~20:30

### 2 開催場所

Web開催 (Zoom Meeting)

### 3 出席委員

田中(亜)委員(会長)、西井委員(副会長)、樋口委員、田中(孝)委員、稲本委員、谷委員、植村委員、富松委員、竹田委員、藤井委員、安村委員、(欠席:松浦委員)

薬事審議会運営要領第5条で定める出席者

一般社団法人三重県病院協会 竹田理事長、三重県病院薬剤師会 松田会長

### 4 議事について

#### 【審議事項】

#### (1) 薬剤師確保計画(仮称)(中間案)について(資料1、2)

薬剤師確保計画(中間案)について資料に基づき事務局から説明。

(各委員等からの意見等)

- : 会長、○ : 委員、◎薬事審議会運営要領第5条で定める出席者、⇒事務局
- 46ページの対策について偏在指標から考えると病院薬剤師がそもそも非常に少ないが、病院の薬剤師をいかに増やすかという内容は含まれていない。地域による現状については地域枠で満たすことができると考えられるが、病院の薬剤師を増やすことについて記載がないのではないかと。奨学金等の対策を実施することで三重県自体の薬剤師は増えていくと思う。
  - ⇒ 必要薬剤師数についてはそもそもの数値が非常に大きいため、具体的な施策については今後関係機関と話を進めていきたい。
- 具体的な入れるべき文言があれば意見をお願いしたい。
- ◎ とにかく病院の薬剤師を増やさないといけない。病院協会では初任給の問題について検討している。生涯賃金はほぼ変わらないので薬剤師を対象とした給与表についても検討する必要がある。給与面と仕事量が多すぎることで改善しないと薬剤師の不足状況は変わらないため、その点について記載が欲しい。薬剤師派遣センターは今すでに具体的に動き始めているのか、また他県での事例はあるのか。
  - ⇒ 派遣センターについては具体的な内容はまだ検討できていない、他県でも動き出しているところはまだない。
- 将来にわたっての部分が多いので、直近での対策は難しいと考えている。派遣センターについては充足している病院や教育機関的な病院からレジデント制度のような形で派遣することができるよう行政から働きかけてほしい、給与制度につい

でも変えていってほしい。鈴鹿医療科学大学には期待している。新卒者の合格率は80%ではあるが、実際は100名程度のうち64名であった。大学の国家試験合格率を上げるために卒業延期を行う学校が全国的にあるため、実際の合格率はもう少し低いと予想される。既卒者で合格していない者も多いと実感している。そこに対して鈴鹿医療科学大学を中心に支援する施策をお願いしたい。薬剤師会としても全面的に協力したい。

⇒ 検討し、反映していきたい。

◎ 医師は地域枠制度だけでは地域の人材不足は解消できないというのが現状。他県での事例として、地域医療連携推進法人という取組もある。法人の中に入ると人材を共有できる。一緒に雇用して病院で仕事することもできる。特に東紀州については減少が進んでいるため、ひとつの方法として早い手段だと考えられる。

◎ 病院を希望しているが給与の関係で諦める人を確保することや、病院での業務量をこなすのにマンパワーが必要。医師は制度上転勤が行いやすいが、薬剤師はなかなか施設を移ることが難しい。派遣の事業についても受入側との雇用の調整ができないと難しいので一定の整理が必要である。病院薬剤師の魅力の発信をしようとしているが、スキルアップを目指す方々を県内にうまく回せるようにすると増えていくと思っている。地域や県でうまく魅力を伝えられるとよいと考えている。

○ 学校を卒業しても合格していない者については個人では把握できていないが、増えている感覚はある。薬剤師会から支援に関する言葉をいただけるのはありがたい。現在薬務課と近隣県共通のアンケートを3～6年生で実施している。給与のこと、夜勤等の勤務体制のことが病院就職のネックになっている。ネガティブな意見を払しょくしていくことがよい。南部の地域について医師は医局のシステムがあるからある程度確保できているが、薬剤師についても支援センターのようなシステムは必要と考えている。

⇒ 感覚的には全国的に言われている給与のことが大きいと考えている。今後決まったら具体的な施策について共有していきたい。支援センターは大学の先生、県薬剤師会の方々とのWGで構築について検討していきたい。

○ 看護職や医師は病院に勤務する方がほとんどである。薬剤師については薬局勤務の方が多いため薬局から派遣する形が普通と考えるがいかがか。

⇒ そのような動きもあるが、比較すると薬局が多いというだけであるため、薬局が充足しているとまでは言えない。病院薬剤師が特に喫緊の課題である。今後状況に応じて検討していきたい。

○ 数は少ないが、薬局薬剤師が病院に勤務することもある。業務は似ているようで全く異なるため、派遣として形にするのは難しいと思っているが、将来的にはそのようにできるとよい。

- 女性薬剤師の割合が高い。復職・転職支援について退職した数値は具体的にあるか。
- ⇒ 退職者や休職者の具体的な数については把握していない。病院については夜勤等の働き方の関係もあるため復職しづらい一方で、薬局はパート等の多様な働き方がしやすいというイメージがある。
- 病院の薬剤師を確保するに当たっては復職に関しても盛り込んでいかないと施策にずれが出てしまう恐れがある。
- 修正についてスケジュールの都合もあるので、会長一任でよろしいか。異議がないので会長一任とします。